

平成17年3月28日
阪神甲子園球場
株式会社阪神タイガース

阪神甲子園球場のベーブ・ルースのレリーフを ボルチモアの「総合スポーツ記念館」へ寄贈

阪神甲子園球場、(株)阪神タイガースでは、阪神甲子園球場正面にあるベーブ・ルース記念碑のレリーフ部分のレプリカを新たに制作し、ベーブ・ルース誕生の地であるアメリカメリーランド州ボルチモアの総合スポーツ記念館へ贈呈します。

今回の贈呈は、今年5月中旬、ボルチモアに総合スポーツ記念館が新設されることになり、そこにベーブ・ルースの記念館（ボルチモアにあるベーブ・ルースの生家）が移設されるのを機会に、展示品の一つとしてレプリカを贈呈することになったものです。

この贈呈は、ベーブ・ルースの記念館が移設されることを知ったノンフィクション作家の佐山和夫氏がベーブ・ルース記念館に対して「日本の甲子園球場にベーブ・ルースの芸術的すばらしいレリーフがある」との情報を提供したことがきっかけで、当社としても日米野球文化の友好の歴史をしのび、将来にわたって野球を通じた交流が広がることを願って行うものです。

阪神甲子園球場のベーブ・ルース記念碑のレリーフは、ベーブ・ルースが他界した翌年の昭和24年、阪神甲子園球場が、彼の記念すべき来場をしのび、その史実を永遠に残すために彫刻家 ゆたか 松岡 阜 氏に依頼して作成したもの（ブロンズ製、たて90cm、よこ90cm）です。

今回、贈呈するレプリカは、松岡氏の協力を得て、保存されていたオリジナルのレリーフから忠実に再現するものです。また阪神甲子園球場のベーブ・ルース記念碑は永年の風雨により傷みや汚れがひどかったため今回の贈呈に合わせて、清掃補修をし、新たに銘板を取り付ける予定です。

なお、今回の贈呈は、阪神甲子園球場を経営する阪神電気鉄道(株)の開業100周年及び(株)阪神タイガースの創立70周年を記念した事業の一環として行います。

■ボルチモア送付分の銘板内容

ベーブ・ルースは、1934年全米オールスターチームのメンバーとして訪日し、日本中に野球本来の愉しさを伝え、今日の日本の野球文化の礎を築いた。このレリーフは、日本を代表する野球場、阪神甲子園球場がその親善の偉業を称え、彫刻家松岡阜氏に依頼し、制作したものを復刻したものである。

この度総合スポーツの記念館が新設されるにあたり、日米野球文化の友好の歴史を偲び、これからも野球を通じた友好関係が広がることを願って、阪神甲子園球場と阪神タイガースが共同で、ここに贈呈する。

2005年5月 阪神甲子園球場
阪神タイガース

Babe Ruth was part of a team of American All-Stars who toured Japan in 1934. That visit and Ruth's tremendous appeal to the Japanese people, led to the birth of the baseball culture here. This is a replica of a sculpture from Hanshin Koshien Stadium, a baseball icon in Japan. Sculptor Yutaka Matsuoka was commissioned to create the piece to commemorate Ruth's visit and friendship.

This plaque is presented by Hanshin Koshien Stadium and the Hanshin Tigers baseball team to celebrate the opening of Sports Legends at Camden Yards, and to recall the US-Japan baseball cultural exchange and friendship between the two countries started by the Babe, with the hopes of building a stronger relationship through baseball.

May 2005 Hanshin Koshien Stadium
Hanshin Tigers

■阪神甲子園球場にあるベーブ・ルース記念碑に新たに取り付ける銘文

野球王ベーブ・ルースの碑

1934年（昭和9年）、ここ阪神甲子園球場を訪れた野球王ベーブ・ルースは、日本に野球本来の愉しさを諭し、人々を熱狂させたと伝えられています。

この芸術的なレリーフは、その偉大な史実を後世に伝えるために、1949年（昭和24年）彫刻家松岡阜（ゆたか）氏の手によって作られました。

2005年春、ベーブ・ルース生誕の地、米国ボルチモアに総合スポーツの記念館が新設され、昭和9年の来日を記念した特別室が設けられることとなりました。この喜ばしい知らせを受けて阪神甲子園球場と阪神タイガースは、今日の野球文化繁栄の礎を築いたベーブ・ルースの大恩に改めて感謝し、米国の人々に彼が日本で果たした親善の偉業を伝えるべく、作者松岡阜氏の協力を得て、このレリーフを復刻し寄贈しました。

なお、これは、阪神甲子園球場を経営する阪神電気鉄道(株)の開業100周年及び阪神タイガースの創立70周年の記念事業として実施されたものです。

2005年 4月

■ベーブ・ルースの来日

ベーブ・ルースは、日本での野球人気の向上を目的とした日米野球試合を行うため、アメリカ大リーグ選抜軍の主将として昭和9（1934）年に来日し、11月24日、25日に阪神甲子園球場で試合を行いました。

この選抜軍の来日が、日本に野球ブームのきっかけを作りました。

また、同年12月に「大日本東京野球倶楽部（現読売巨人軍）」、翌年12月に「大阪タイガース（現阪神タイガース）」が設立されました。

その後のプロ野球の繁栄を考えると、ベーブ・ルースはいわば日本のプロ野球の“産みの親”ともいえます。

■ベーブ・ルース記念碑の建設及び除幕記念試合

昭和23（1948）年、ベーブ・ルースは他界しましたが、“野球王”ベーブ・ルースが果たした日本での親善の偉業をしのび、翌年の昭和24（1949）年に記念碑を建設しました。

除幕式は2月25日、当時の小曾根阪神電鉄社長のほか、進駐軍の大尉や多数の来賓が出席して挙行され、数百人の観衆が見守ったと伝えられています。

更に、除幕記念試合として、南海、巨人、阪神の3チームによる総当たり戦が阪神甲子園球場で行われました。

また、昭和26年夏の高校野球大会開催時に、故人をしのんで出場校を代表して2校の球児が参列のもと、偉大な大先輩の記念碑に花束がささげられました。

■米ボルチモア 総合スポーツ記念館（SPORTS LEGENDS AT CAMDEN YARDS）

ボルチモアでは町のスポーツの歴史をすべて包括した記念館を建設しており、今年5月に開設予定となっています。

場所はボルチモア・オリオールズの本拠地球場、カムデンヤーズに隣接する旧鉄道駅舎。
公式HP <http://www.sportslegendsatcamdenyards.net/default.aspx>